

相武台公民館

五十年のあゆみ

Sobudai
Community
Center
50 Years of
History

相武台公民館

五十年のあゆみ

Sobudai
Community
Center
50 Years of
History

相模原市立相武台公民館創立50周年記念事業実行委員会



相武台公民館創立50周年記念事業
実行委員会実行委員長

相武台公民館長
宮本憲雄

相武台公民館創立50周年を迎え、記念誌を発刊するにあたり、ひと言ご挨拶申し上げます。地域の皆様には、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また常日頃より公民館の運営、事業の推進に多大なるご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

公民館の50年の歴史の原点、昭和49年から事務局を相武台出張所内に間借りをしていた10年間は、組織公民館と呼ばれておりました。昭和59年に念願の公民館が新築オープンし、当時の館報には「事業充実の15年がスタート致しました」と書かれております。

このたび、創立25周年以降のあゆみを次世代への道しるべとなるように記念誌づくりに取り組んできました。

相武台地域の現状は、児童数の減少により閉校となった磯野台小学校の跡地利用について、相模原看護専門学校の移転・リサイクルスクエアの開設・こどもセンターへと生まれ変わりました。相模原市は19番目の政令指定都市となり、相武台の地区名は南区に決定しました。みんなの歌「笑顔の相武台」も応募により誕生いたしました。

また、平成28年には相武台まちづくりセンター・公民館を磯野台小学校跡地に移転しその活動拠点を相武台の「そ」新磯野の「あら」を繋いで「そあら」と命名しました。

令和2年には新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し猛威を振るい、感染防止のため学校の休校・公民館行事の殆どが中止となりました。今まで経験した事のない大変な状況も3密(密着・密接・密集)を避け・手洗い・うがい・マスクの着用で乗り越えてきました。

相武台公民館は、文化・芸術・体育・健康・ちょっとだけ先生・広報・保育等、地域の社会教育の活動拠点として、子どもから大人まで地域の皆様に楽しく活用されております。

「わたしの公民館♡みんなの公民館」は、学びの場・ふれあいの場にふさわしい50年の歴史を活かした、いつも気軽に立ち寄れる場所づくりに取り組んでまいります。

記念事業の実施に携わって頂きました多くの皆様に感謝申し上げます、発刊のご挨拶と致します。

－わたしの公民館♡みんなの公民館－

五十年のあゆみ

「五十年のあゆみ」題字：山田 幸子

目 次

発刊にあたって 公民館長(実行委員長)……………2	平成27～令和元年度トピック……………21
相武台公民館創立50周年を祝して 相模原市長…4	令和2～令和6年度トピック……………25
相武台公民館創立50周年を祝して 教育長…………4	これからの相武台公民館……………28
当時を振り返って 第7代公民館長……………5	座談会「わたしの公民館♡みんなの公民館」…29
平成12～令和6年度事業年表(25年間のあゆみ)…6	創立50周年記念式典イベント……………34
相武台のあゆみ……………8	サークル一覧……………36
平成12～平成16年度トピック……………9	公民館活動を支えた方々……………38
平成17～平成21年度トピック……………13	創立50周年記念事業実行委員名簿……………40
平成22～平成26年度トピック……………17	



相武台公民館創立50周年を祝して

相模原市長

本村 賢太郎



相武台公民館は、令和6年4月に記念すべき開館50周年を迎えました。これもひとえに、歴代公民館長、自治会長をはじめとする相武台地区の皆様のご理解とご協力の賜物であると心から感謝申し上げます。

昭和49年に産声を上げた相武台公民館は、半世紀の長きにわたり、社会教育や地域コミュニティの拠点として親しまれ、地域の皆様と共に歩みを続けてまいりました。

この50年、少子高齢化の進行とそれに伴う人口減少社会の到来などにより、私たちを取り巻く環境は大きく変化しております。公民館に対するニーズも多様化が進み、その担う役割もますます重要となる中、引き続き、誰もが気軽に集い、共に学び楽しむことができる施設として、地域の皆様とともに歴史を積み重ねてまいりたいと考えておりますので変わらぬお力添えをお願い申し上げます。

本市も昨年市制施行70周年の節目を迎えました。先人たちの英知とご尽力に改めて敬意を表しますとともに、引き続き「都市と自然のベストミックス」という本市の魅力を最大限に生かし、30年後に迎える市制施行100周年においても、市民の皆様が誇りを持ち愛するまちであり続けるように、さらなる飛躍と発展を遂げるための礎を築いてまいります。

結びとなりますが、相武台公民館のますますのご発展並びに関係者皆様のご健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

相模原市教育委員会教育長

鈴木 英之



昭和49年に誕生した相武台公民館は、記念すべき創立50周年を迎えることができました。今日に至るまで、学習・文化・スポーツ活動、青少年育成活動など様々な公民館活動を通じて、地域づくりの拠点として大きな役割を担ってきました。

このような公民館活動の継続が可能であったのは、公民館長をはじめとする相武台地域の皆様のご御尽力の賜物であり、50年の長きにわたり献身的に相武台公民館を支えてくださったことに深く感謝申し上げます。

さて、少子高齢化や人口減少などにより社会が大きく変化する中、相武台公民館では、地域の人材登録制度である「ちょっとだけ先生登録制度」などの活動を通して社会的課題の解決に取り組むとともに、学校と連携した地域教育力の向上や、学びを生かす機会の提供などにより、地域コミュニティの維持・活性化にも努めていただいているところです。

これからも皆様のご御尽力を賜りますようお願い申し上げますとともに、地域の身近な生涯学習・社会教育の場である相武台公民館の益々の発展を御祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

～当時を振り返って～

平成22年度の「公民館まつり」



第7代公民館長 平片 勝美

その日は、ひな祭りも過ぎそろそろ水もぬるむ頃で、明日からの「公民館まつり」準備で、約20名の人達が各フロアに集まっていました。準備が終わる頃、突然周りのガラスが大きく揺れ、館内放送で「地震です。慌てず、周りのボードの倒れに注意し、蛍光灯の破片が落ちる場所から離れてください。」とアナウンスしました。その後何事もなく、予定通り準備・片付けを済ませ解散しました。先程の地震の様子を知らず、明日の「公民館まつり」を楽しみに家路に着きました。

本文冒頭の「その日」とは私が公民館長在任中、平成23年3月11日14時46分、三陸沖を震源とした東日本大震災が発生した日でした。準備会場は、現公民館が移転する以前の緑台小学校南側にあった公民館で、まちづくり会議等では、建物の老朽化、利用者増加により、広い駐車場・大きな部屋のある新施設を、といった要望が出ていました。

帰宅後TVを見て、私は驚きました。多くの家々や船が流され凄まじい光景で、涙無くして見られぬものになっていきました。

翌朝、私は「公民館まつり」を開催して良いのだろうか？被災地出身者のことを思うと、自粛すべきでは？私は関係役員を収集して協議し、時間ぎりぎり「やむなく中止」の結論が出て、急ぎ玄関前に「公民館まつり中止」の張り紙を掲示しました。

以来、相武台地区の会議でも、新公民館設置とともに地震対策と避難場所の確保も話題となり、2014年旧磯野台小学校の校舎を活用した移転が決定、2016年9月には太陽光発電・緊急遮断弁付受水槽・広い駐車場・大きな部屋と部屋数も増えた施設が完成しました。

今年、第40回公民館まつりが開催されました。大地震が発生したあの年の「公民館まつり」も40回の一つとカウントされ、今日に至っています。

これからも平穏な「公民館まつり」が開催されますことを心よりお祈りしています。

大勢の人達の思いが込められた、他に誇れる施設で、みんなの楽しそうな声が聞こえています。

～歴代公民館長～



平成24年～平成29年
(2012) (2017)

小谷 紘一郎 公民館長



平成30年～令和元年
(2018) (2019)

伊藤 幸夫 公民館長

S = 昭和 H = 平成 R = 令和

		2000 (H12)	2001 (H13)	2002 (H14)	2003 (H15)	2004 (H16)	2005 (H17)	2006 (H18)	2007 (H19)	2008 (H20)	
まつり	公民館まつり (第1回/S60～)										
	こどもまつり (第1回/H7～)										
	市民健康まつり (第1回/S56～)										
学級	高齢者学級 / 相武台ゆとり学級 (第1回/S56～)										
	成人学級										
健康づくり運動普及員 (体育部 S59発足)	スポーツ大会 (第1回/H12～)										
	小学生スポーツ大会 (第1回/H8～)										
	ウォーキング										
	ハイキング			中止					トレッキング		
	スケート教室										
	スポーツ教室 / つどい		テニス	バウンドテニス				カーリング	バウンドテニス		
	健康教室 等		指圧教室		ストレッチ	バランス体操			元気倶楽部	健康	
保育部 (保母会 S59発足 ↓ 保育の会 H11男女雇用機会均 等法の改正に伴い名称変更 ↓)	子育て講座・教室 赤ちゃんとお母さんのつどい 子育てママのつどい	子育て講座									
	ここに子ども教室										
	保育室開放										
広報部 (S59発足)	館報発行 (H12.5.1 第120号～)										
	初歩の広報紙づくり教室										
(H2発足) 青少年部	小学生リーダー研修会 / 相武台ふれあい体験クラブ	小学生リーダー研修会									
	相武台ふれあい体験リトルクラブ										
	そあらで遊ぼう! 追跡ハイク										
	夏休み・冬休みこども映画会 子ども料理教室・工作教室	夏休み・冬休みこども映画会									
	自然科学教室	工作教室	子ども料理教室・工作教室								
文化部 (H10発足)	コンサート	弦楽	モンゴル	リコーダー	二胡	箏&尺八	ハーモニカ	ギター	ラテン	ビオリラ	
	趣味・実用・教養講座	篆刻				悪質商法			布ぞうり		
	美術講座					箱根美術館	県立近代美術館	ポーラ美術館	横浜美術館		
ちよっとだけ先生	「ちよっとだけ先生」による自由研究お手伝い・体験教室→ちよっとだけ先生の夏休み教室										
	ちよっとだけ先生のコミュニティ事業「楽しい教室」/ ちよっとだけ先生事業「ちよっとだけ先生教室」										
その他	主な事業	ふるさと相武台絵画展示				団塊の世代交流					
		IT講習会				天文教室					
主な単発事業		初級パソコン教室 / ビデオ撮影入門講座	親子陶芸教室					渡辺山展	相武台地区学社連携・協同事業	GEMSサイエンス教室	

相武台のあゆみ

相模原市南区相武台地域のあゆみを思うままに書きました。

相武台の人口は、約2万人。地元の相武台については、戦後急速に発展したため歴史が浅いと言われがちですが、ひとつの町が誕生・成長するには、生い立ちがあります。

川がない、山がない、気が付けばお寺や神社もない。さらにお地蔵さん、道祖神、庚申塔、石碑等の石造物が全くない。

また、相武台地域の道路に目を向けると、碁盤の目のように整然となっている。この碁盤の道は、戦後の食糧難の打開策として昭和23年「畑地灌漑事業」が計画され、土管水路で畑地に水を供給する方法が取られたが、まもなく、急速な都市化により畑地は、住宅地・工業用地へと転用されていった。その灌漑用水路は、現在水路に蓋をして「遊歩道」「仲よし小道」として活用されている。

西側には、キャンプ座間が隣接している。

戦前の昭和16年軍都計画化により、8町村合併で高座郡相模原町が誕生した。

「昭和42年に住み始めたが、水がないので近所の家井戸から水をもらいました。風呂の水を運ぶのが大変でした。」(相武台3丁目在住者)

「相武台」命名の経緯と乱用の防止

昭和天皇陛下が陸軍士官学校の卒業式に行幸された時、「武を相(み)る高台」と命名された。わが街相武台は、昭和45年の行政区として誕生するまでは名称の乱用防止のため「相武台」という呼び名は、使われなかった。

文：宮本 憲雄

2000 ~ 2004 平成 12 年度 ~ 平成 16 年度

平成12年度 (2000)

平成12年4月、介護保険法と成年後見法が施行された。いずれも少子高齢化時代対応するための国の施策である。介護保険の保険者は市区町村であり、相模原市および相武台でも介護保険の運用が始まった年である。

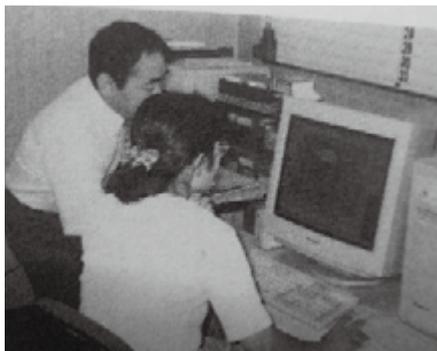
公民館体制

4月1日時点での管内人口は22,396人、世帯数8,776であった。公民館体制は中野館長、佐藤副館長、石川次長、一之瀬主任、安部主事の5名。この年から公民館報「そうぶだい」の発行日が20日から1日に変更となった。自治会配布物の回覧方法変更に伴う措置である。

広報部が印刷現場を見学 (初歩の広報紙づくり教室)

7月27日、広報部が小学生8名とともに、この年から新たに公民館報の印刷をお願いすることになった湘南堂印刷(有)と朝日新聞社座間ステーションを見学した。

コンピューターの導入などによる印刷技術の進歩に感動し、参加した小学生たちは、インクにおいて、4色を重ねるカラー印刷の技術、印刷物を運ぶ機械の速さに驚いていた。



北相武台小と磯野台小が統合 「もえぎ台小」に

平成13年4月、北相武台小学校と磯野台小学校が統合され、新しくもえぎ台小学校が誕生した。

北相武台小は昭和51年に開校し、平成12年時点では255名11クラスあり、建物の増改築が行われ、もえぎ台小として生まれ変わる準備が整えられた。

磯野台小は昭和56年に開校し、平成12年度に20周年を迎え、11月に児童、先生方、保護者による20周年記念式典が開催されたが、当時の6年生が最後の卒業生となった。

両校の閉校式は、平成13年3月22日の終業式の日在校生と保護者の出席で行われ、もえぎ台小の開校式は4月5日に行われた。



磯野台小の記念碑

平成13年度 (2001)

公民館体制

4月1日付で石川次長、安部主事が異動、新たに北村主事が配属となった。

小学生リーダー研修会「追跡ハイク」

5月20日、県立相模原公園で小学生リーダー研修会の追跡ハイクが行われた。研修生64名が7班に分かれ、制限時間内で公園内の草木等に付けられたヒントを手掛かりに20個のポイントを探して得点を競った。班のみんなで助け合い、木の枝やベンチの下等に隠されたポイントを夢中になって探し、見つけるたびに歓声があがっていた。5月とは思えぬ暑さの中であったが、子どもたちの笑顔がいっぱいの事業となった。

子育て講座 ～夢と誇りをもって～ 「仲間と一緒に子育て講座を楽しもう！」

6月14日から全4回、子育てについて、講話や実技をとおしてみんなで楽しく学び、参加者お互いが子どもを交えて交流を深める機会を目的とする「子育て講座」を実施した。

この年は、親子でリズム遊び、ポケットティッシュカバー作りや牛乳パックでおもちゃ作り、中華料理教室、そして4回目はお母さん業界新聞編集長の藤本裕子氏を招き、講演会を行った。藤本氏は子育て中の母親たちに、「夢が持てる子育て」を提案。そして、参加者全員が夢を語った。

それぞれの多種多様な夢に向かって突き進み、楽しみながら子育てをしてほしい。

相模原市内各所でIT講習会開催

2000年代に入るところからパソコンが各家庭に普及し、インターネットや電子メールを活用した情報提供・入手が主流になってきた。

相模原市では、IT講習会を534講座、延べ受講者数17,200余名分を実施。相武台公民館では6月に4コースに分けて実施し、延べ80名が受講した。

平成14年度 (2002)

新しい公民館体制

平成12年度から関係機関で検討していた公民館の在り方が決定し、4月1日付で北村主事が異動、相武台公民館の職員は新たに制定された公民館活動推進員2名(大谷氏、曾我さん)を含む4人配置となり、年末年始と毎月第2日曜日を除く通年開館が始まった。

また、学校も平成14年度から完全週5日制に移行し、学校と地域が協力して特色ある教育活動の展開が必要になった。公民館の地域学習の拠点としての役割が高まることになった。

「大人の福祉講座」

相模原市では、介護保険が始まった平成12年度から、介護保険サービスと在宅支援サービスで高齢者を支援している。これに対応すべく相武台公民館では「大人の福祉講座」を5月31日から6月14日までの3回にわたり開催した。

講師には新磯野在宅支援センター職員を招き第1回は、参加者に対し介護保険制度の理解とグリーンパーク緑道公園で車椅子の体験をしてもらった。3回の福祉講座を通じて介護保険と高齢者福祉の理解を促した。

公民館報から

「相武台地名の由来」(抜粋)

「相武台」の地名は比較的新しい。この付近は、明治22年新戸村と磯部村が合併して新磯村となっていた。昭和12年に陸軍士官学校が市ヶ谷から移転して、その卒業式に出席された昭和天皇

が学校の所在地を「相武台」と命名されたことに由来する。

当初は相武台という名はおそれ多いということで、一般には使用されなかったが、その後周辺の地域も相武台と呼ぶようになり、駅名も相武台前、相武台下となった。

(相武台歴史同好会)

平成15年度 (2003)

公民館体制

4月1日付で一之瀬主任が異動、新たに渡辺主任が着任した。中野館長、佐藤副館長、石川次長、吉田・渡辺活動推進員の6人体制となった。

また、5月31日に公民館長の諮問機関であった運営審議会が廃止され、翌6月1日に、新たに地域住民の主体的参画を得て公民館運営全般について協議し、推進するための運営協議会が発足した。

学社融合推進モデル地域としての活動

平成15年度は相武台地域が学社融合推進地域に選ばれ、児童生徒に関わる地域行事を通じて公民館と学校が連携・協力することとされた。

・小学生スポーツ大会

第8回小学生スポーツ大会は、練習会を6月22日と28日、大会を7月6日、予備日を7月13日で行う予定であった。

練習会は予定どおり、地区の少年野球指導者の協力のもと緑台小学校で行われ、各学校の先生方も参加されたが、大会は開催日、予備日も悪天候のため行うことができず、中止となった。男子7チーム、女子3チームの参加が見込まれていた。

・相武台ふるさとまつり

10月26日、第27回ふるさとまつりが緑台小学校で行われた。今回は学社融合推進モデル地域ということもあって、緑台小学校の児童、先生と地域の方々による相武台音頭、相武台中学校吹奏楽部の演奏、そしてステージの最後は相武台高校吹奏楽部の演奏で盛り上がった。

平成16年度 (2004)

新館長に 平片勝美氏が就任

平成7年から9年間務められた中野館長が4月30日付で任期満了により退任、新館長に平片勝美氏が就任。佐藤副館長も退任、石川次長は4月1日付で異動となり、新たに清水館長代理が着任した。

渡辺主任、吉田・渡辺活動推進員の5人体制となった。

「相武台こどもセンター」 オープン

4月1日、相武台こどもセンターが旧磯野台小学校跡地にオープンした。

このセンターは児童館ともえぎ台小児童クラブの機能に加えて、就学前のこどもや中高生が集まる場も備えている。

相武台こどもセンター



団らん室、遊戯室、図書室のほか未就学児童用の幼児室、赤ちゃん連れも安心の授乳コーナーも設置しており、年末年始を除く毎日午前9時から午後5時まで利用できる。

美術講座

～美術品と自然の調和を楽しんで～

10月29日、文化部事業「美術講座」が行われ、箱根美術館を参加者27名で見学した。

貴重な文化財の四散を防ぎ、東洋美術の充実した公開を目指して、美術品蒐集に努めた岡田茂吉氏によって設立された美術館であり、展示室には多くの窓から見える箱根の秋の風景と作品が調和し、美しい庭園とともに、一日みんなで美術と自然をゆったり味わうことができた。



Memorial Photo



2005 ~ 2009

平成 17 年度 ~ 平成 21 年度

好評を得た ちよっただけ先生のお手伝い教室



平成17年度 (2005)

ちよっただけ先生のお手伝い 教室

8月20日、21日の2日間、ちよっただけ先生によるお手伝い教室が行われた。この教室は、「相武台公民館ちよっただけ先生」に登録している先生たちが、子どもたちの夏休みの宿題や自由研究をお手伝いするという目的で、今回、初めて実施された。

当日は6人の先生が、書道や工作など6つの教室を開き、館区内の小学生述べ57人が参加した。ひとりでは無理かなと思われることも、少しのお手伝いがあれば子供たちはあっという間にできるようになる。



公民館体制

4月1日付で渡辺主任が異動になり、新たに三留活動推進員が配属され、平片館長、清水館長代理、吉田・渡辺活動推進員の5人体制となった。

今後も、子どもたちがさまざまな体験をできる機会を増やすことが必要だと思われた「ちよっただけ先生のお手伝い教室」だった。

相武台ふれあい体験クラブ

前年までのリーダー研修会を「相武台ふれあい体験クラブ」に改称し、5月14日から2月18日まで、全9回行われた。このクラブは、相武台公民館区内にある3つの小学校の4~6年生を対象に、集団生活やグループ活動を進めるうえで必要な知識・技術を学習することを目的としている。

オリエンテーションから始まった活動は、ココナッツデザート作り、追跡ハイク、宿泊研修、清掃活動、クリスマス会、凧作りなど多岐にわたり、また、歌に合わせて手話も学んだ。

クラブ生は、たくさんの友達や地域の方々との出会い、さまざまな体験をすることができた。

平成18年度 (2006)

公民館体制

4月1日付で三留活動推進員が異動、藤田活動推進員が着任。平片館長、清水館長代理、吉田・渡辺活動推進員の5人体制となった。

実用講座 「悪徳商法にご注意！」

8月17日、消費生活センター相談員：古内豊美氏を講師に迎えて、実用講座「悪徳商法にご注意！」が開催され、悪徳商法の実例と予防策を学んだ。

被害にあわないためには次のことに気を付ける必要がある。

- ・いない時は「いません」とはっきり断る
- ・買う前に家族や友人と相談する
- ・契約書は内容をよく確かめる
- ・押印、サインは慎重に
- ・口約束にも注意する
- ・お金はすぐに支払わない
- ・おいしい話に安易に乗らない

ちよっただけ先生 「お手伝い・体験教室」に 延べ163名が参加

8月26・27日、前年好評だった「ちよっ

ただけ先生」による「お手伝い・体験教室」が開催され、前年の倍の12名の講師が凧作りや手芸教室など12の講座を開き、館区内の小学生延べ163名が参加した。

木工品や手芸品、絵画、書道などの作品づくりに加え、茶道や囲碁、パソコンなどの体験講座もあり、多くの子どもたちが楽しんだ。

相武台ゆとり学級(高齢者学級)

8月16日から11月18日まで8回にわたり「明るく元気で楽しい仲間づくり！」をテーマに参加者76名で、第26回相武台公民館高齢者学級が行われた。

第1回から参加の学級生は、「定年後まもなく学級が始まったのを機に一生学びたい」と思い、参加。文章を書く講座や印象に残っている、毎回社会見学のバス旅行をととても楽しみにしている。」という。

平成19年度 (2007)

公民館体制

清水館長代理、吉田活動推進員が異動となり、新たに中島館長代理、中西活動推進員が着任。2期目に入った平片館長、渡辺・藤田活動推進員と5人体制となった。藤田活動推進員は7月末で退職、10月1日付で北島活動推進員が着任。

健康教室

8月7日と14日の2日間、健康教室が開催された。1回目は「メタボリックシンドローム(内臓脂肪症候群)の予防のために」というテーマで保健師の角田千代美氏の講義を聞いた。

中高年に関心の高いテーマだけに、23名の受講生は熱心にメモを取り、活発な質疑応答が行われた。自分の体の状態を知るために、身長、体重、体脂肪、血圧、胴回りの計測を行った。

2日目は藤野園芸ランド遊歩道でハイキングを楽しみ、脂肪を燃焼させた。

団塊の世代交流会

8月18日、団塊の世代交流会が開催された。この年、団塊の世代は60歳の定年前後。「地域での仲間づくりをしませんか」の呼びかけに男女合わせて7名が集まった。

当日は、公民館のコミュニティ室が

「歌声喫茶」となり、参加者はアコーディオン奏者の斉藤明夫氏の伴奏で「学生時代」や「若者たち」などの歌謡曲を歌ったり、懐かしのあの頃を熱く語ったりした。月1回程度開催し、交流を継続していった。

平成20年度 (2008)

公民館体制

5年間活動推進員を勤められた渡辺さんが異動、藤野活動推進員が着任。平片館長、中島館長代理、中西・北島活動推進員の5人体制。

趣味講座 「布ぞうりを作ってみよう」

9月6日、13日の2日間にわたり堀口眞弘氏、澤田康雄氏を講師に、趣味講座「布ぞうりを作ってみよう」が行われ、22名が受講した。

参加者は最初に布を裂いて編み紐を撚り合わせ、つま先部分から編み込んでいくが、最初はうまくできず悪戦苦闘。講師のわかりやすい説明・指導で作上げることができ、満足そうだった。

相武台ふれあいステージ

公民館振興計画推進事業「相武台ふれあいステージ」が11月9日に緑台小体育館で開催された。

今回のキーワードは、「子どもから大人まで誰もが参加できる事業」「学校と連携した中高生の参加」で、相武台高校演劇部の上演、Jポップのバン

ド「ココロロン」とお笑いモダンジャズのバンド「ジュウナナピーチ」のライブコンサートという構成で行われた。

今後も中高生に活躍の場を提供し、地域に目を向けてもらう努力の必要性を感じたイベントであった。

平成21年度 (2009)

公民館体制

前年と同様5人体制。

相武台再発見(相武台の石造物・景観)の刊行

市史編纂室主催、公民館協力で旧市内の石造物と景観調査が行われ、相武台公民館区でも区域内の調査を行った。

その活動成果が冊子「相武台の石造物・景観」として出来あがった。図書館相武台分館で閲覧できる。

冊子には石造物12点、景観50点を選ばれ、写真に解説付きでまとめている。相武台の再発見に役立てていただきたい。

大規模改修検討委員会を設置

昭和59年4月に建設され、築後25年が経過した相武台出張所・公民館は老朽化が激しく、地域づくりの拠点・身近な生涯学習の場としての期待に応えられなくなってきていた。

このような状況を受けて、地域の各種団体の代表により構成された準備

会での協議を経て、10月22日、「相武台出張所・公民館大規模改修検討委員会」が設置された。地域としての総意をまとめたうえで、市に早期実施を要望した。

Memorial Photo



2010 ~ 2014 平成 22 年度 ~ 平成 26 年度

平成23年相模原看護専門学校移転



平成22年度 (2010)

公民館体制

4月1日付で中島館長代理が異動、岩本館長代理が着任。平片館長、中西・北島・藤野活動推進員の5人体制となった。

また、公民館報「そうぶだい」は年6回発行していたが、市財政が厳しい中、平成22年度は7月、11月、翌年3月の年3回発行となった。

第30回市民健康まつり

5月16日、市民健康まつりが「みんな元気！さがみはら～笑顔で楽しく健康づくり」をテーマに、地区自治会連合会をはじめとする地域の方々の協力のもとに緑台小学校で開催された。

晴天に恵まれ約800名が参加。準備運動を行った後、太極すこやか会のみなさんと一緒に太極拳を行い、各コーナーの競技等へ参加した。

また、新磯公民館体育部の協力で行われたスポーツ吹き矢は「誰でもできる、内臓を強める、ストレス解消になる」ということで好評で、大勢参加した。

珠玉のラテン音楽

「トリオ・ロス・ケノス」

6月27日、相武台公民館大会議室で「珠玉のラテン音楽」コンサートが行われた。参加者は128名。老若男女

を問わず、みなさん青春時代を思い出しながら楽しまれた。

主な演奏曲目は「コンドルは飛んでいく」「ベサメムーチョ」「コモエスタ・赤坂」「学生時代」など。参加者からは「生演奏はやはり素晴らしい」等の感想が聞かれた。

東日本大震災で 公民館まつりは中止に

第26回相武台公民館まつりは、3月12日から13日に開催する予定で準備が進められていた。ところが前日の3月11日午後2時46分に東日本大震災が発生、急遽中止となった。

当日を含めて、交通機関はマヒ、計画停電なども行われ、公民館も休館、相武台地区住民の生活もマヒし、その影響は数か月に及んだ。

平成23年度 (2011)

公民館体制

公民館スタッフは前年を引き継ぎ5人体制。公民館報「そうぶだい」は市の予算の復活により年4回の発行になった。また専門部や地域の協力を得て手作り広報誌づくりに挑戦し、年5回発行となった。

相模原看護専門学校、 磯野台小跡地に移転

平成23年4月、相模原看護専門学校が磯野台小跡地に開校した。同校は、昭和48年に「相模原市医師会」によって誕生し、この4月に公益財団法人相模原市健康福祉財団によって、相模原市の地域医療に貢献できるようにと生まれ変わり移転してきた。移転当初は1学年の定員は40名だったが、平成28年には80名に拡大し、相武台地区



に活気をもたらしている。

2年振りに開催 第27回相武台公民館まつり

「誰でも参加・気軽に参加」をテーマに、第27回相武台公民館まつりが、3月10日、11日に行われた。前年は東日本大震災の影響で中止を余儀なくされたため、2年ぶりの開催となった。2日間で集めた東日本復興義援金121,000円は市を通じて大船渡市に送られた。

平成24年度 (2012)

公民館体制

平片館長が退任、新館長に小谷紘一郎氏が就任。岩本館長代理、活動推進員は中西・北島両名が異動、藤野・中島(新任)・峰岸(新任)活動推進員の5人体制となった。

磯野台体育施設で 相武台市民健康まつり

5月20日、恒例の市民健康まつりが磯野台体育施設のグラウンド・体育館で開催された。31回を数える市民健康まつりの磯野台体育施設での開催は初めてであり、11年前に磯野台小が閉校となった後、久々に子どもたちの歓声を聞くことができた。

開会式の後、相武台鼓笛隊の演奏。渋谷本校と相模原キャンパスから参加の青山学院大学ダブルダッチサークルの模範演技が行われた。

また、相模原看護専門学校の学生による「フットケア」「対面式血圧測定」コーナーも健康まつりを盛り上げてくれた。

スポーツ魂にエールを！ 小学生スポーツ大会開催

7月1日、小学生スポーツ大会



「ティーボール大会」が磯野台グラウンドと、緑台小学校にて開催された。

男子3チーム、女子2チームの5チームで男女のチームに分かれ対戦した。各チームは1～6年生までの子どもたちで編成され、高学年の子が低学年の子の面倒をみたり、教えたりしていた。

子どもたちの元気な声、気合十分の意気込み、精いっぱい応援で、会場は大変盛り上がった。

平成25年度 (2013)

公民館体制

4月1日付で岩本館長代理が異動、大塚館長代理が着任。活動推進員は前年8月1日に着任した山崎・山仲両名と藤野氏の3人となった。

教養講座「歌舞伎鑑賞教室」

今年で3回目となった「歌舞伎鑑賞教室」は文化部の初夏のイベントで、7月10日に53名の参加で行われた。

10時過ぎに国立劇場に到着し、劇場裏にある「伝統芸能情報館」で衣装・小道具を鑑賞後開演となり、はじめに中村萬太郎氏から「歌舞伎の見方」についての解説があり、「芦屋道満大内



鑑「葛の歯」一幕三場の上演を鑑賞。帰りのバスで新築された歌舞伎座の前を通り大満足な1日となった。

大山山麓紅葉ハイキング

11月24日、体育部・健康づくり部の事業として大山ハイキングが開催された。

当日は絶好のハイキング日和で、45名の参加者は電車に乗り、秦野駅で下車、大山へと向かった。途中、車窓からは富士山も見え、蓑毛に着いてハイキング前には全員で軽くストレッチしてスタート。

行き交う人たちとの「こんにちは」「頑張ってください」などの挨拶や、参加者同士の楽しい会話が、くじけそうな気持ちを追い払ってくれる。

阿夫利神社駅のある下社には真っ赤に色づいたモミジの木があり、ケーブルカーを待つ間の癒しの時間を提供してくれた。

平成26年度 (2014)

公民館体制

活動推進員の藤野・山崎氏が異動となり、新たに江成・柳原両活動推進員が着任。小谷館長、大塚館長代理、山仲活動推進員の5人体制。

はじめての俳句実作講座

涌田佑先生の指導で6月21日、28日、7月3日の3日間、開催された。俳句は難しいと思われがちだが、日常を切り取り、五七五で表現することで、気軽に作ることができる。この講座で物事をよく見て感じる力を養うことができたのではないかな。

ちょっとだけ先生 「夏休み教室」

夏休みの子どもたちにさまざまな体験の場を提供するちょっとだけ先生の夏休み教室が、今年も8月22日、23日に開催された。

この教室は、子どもたちが地域の大人と触れ合いながら、さまざまな経験をしてほしいという願いから14年前に始め、今年は2日間で16教室を開催、208人の子どもたちの参加があった。

教養講座「落語を楽しむ」

12月20日、冷たい雨が降る日、相武台公民館に立川流の噺家立川志獅丸さんに来ていただいた。当日は「時そば」「かわりめ」、中休みを入れて「権助提灯」の三席を熱演、時事ネタを織り交ぜながら、満員御礼の会場を笑いで充たしていただいた。



Memorial Photo



2015 ~ 2019
平成27年度～
平成31年度 / 令和元年

平成28年
公民館移転・開所式



平成27年度
(2015)

第31回相武台公民館まつり

昭和59(1984)年に建てられた旧公民館での最後の「第31回公民館まつり」が3月12日、13日の日程で開催された。公民館報196号(3月31日発行)には「32年間ありがとう 次は新公民館での開催だ!」との見出しで紹介され

ている。当日は多くの実行委員が2日間にわたり、旧公民館で行われる最後の公民館まつりを成功させるべく、「わくわく ドッキリ ほーっこり」をテーマに掲げ、展示、音楽・芸能発表、体験・模擬店の3部門が、旧公民館最後の公民館まつり盛り上げ、2日間の来場者数は約1,800名となった。

公民館体制

前年と同様5人体制。



平成28年度 (2016)

新公民館オープン

9月20日、新公民館が旧磯野台小学校を改装してオープンした。旧公民館は飲食禁止だったが、3階に飲食可能なソファスペースが設けられ、相模の大風文化会館から大風の新たな寄贈もあった。



公民館体制

4月1日付で大塚館長代理が異動し、小原館長代理が着任。山仲・江成活動推進員も異動し木下主事が着任。小谷館長、柳原活動推進員との4人体制。

年度途中で竹熊主事が着任した。

ファミリーバドミントン教室

体育部では、前年度まで「健康吹き矢教室」を月1回のペースで開催していたが、平成28年度からは「ファミリーバドミントン教室」に変更した。

ファミリーバドミントンは、年齢、性別に関係なく、老若男女が楽しめるスポーツで、ルールも難しくない。毎年12月第1週の日曜日には「市スポーツ推進委員連絡協議会」主催の大会も開催され、公民館単位での参加も可能。また、公民館体育部主催のファミリーバドミントン大会も2月に行っている。

相模原市民吹奏楽団の 公開練習はじまる

相模原市民吹奏楽団は、主に旧磯野台小学校の音楽室で練習を行っていたが、相武台公民館の移転に伴い、大会

議室等を拠点に活動することになった。同時に相武台地区を盛り上げるために公開練習が始められた。



<相模原市民吹奏楽団>

1965(昭和40)年KSファンファーレ楽団として発足。1971年、現在の名称に改める。団員は約70名、高校生以上の団員で構成されている。

平成29年度 (2017)

公民館体制

前年中途で着任された竹熊主事が退職、北島主事が着任し、小谷館長、小原館長代理木下主事、柳原活動推進員との4人体制となった。

戦争と平和展

終戦から72年目、戦争の記憶は次第に遠くなってきている。そこで相武台公民館では、地域の皆さんに呼びかけ、戦争で実際に使われたものや貴重な遺品を集めて展示し、改めて平和の大切さを考えようと「戦争と平和展」を企画した(実行委員長 涌田佑氏、副実行委員長 矢野健治氏)。

戦争と平和展は7月15日から8月20



日まで行われ、小中学生・高校生から高齢者まで述べ1,311人が来場、平和の大切さをかみしめた。

期間中はギャラリートークも行われ、8月20日には、被爆体験講演会が行われ、115名の参加があった。

相武台こどもまつり

子どもの手で企画、運営する「こどもまつり」。2回の実行委員会の後、11月26日に本番を迎えた。例年と違い発表部門と出展部門を分けてプログラムを調整したこともあって、オープニングから盛り上がった。

<参加者の声>

・屋台がいっぱいあり楽しかったです。また来たいです

(小学1年~3年)

・めっちゃ、楽しかった!

でも段ボール迷路ができなかった

(小学4~6年生)

平成30年度 (2018)

平成30年6月から公民館施設使用料・利用料金制度が導入された(免除規程あり)。

公民館体制

この春、相武台公民館長が小谷紘一郎氏から伊藤幸夫氏に交代した。新館長下での最初のイベントが「市民健康まつり」であった。

市民健康まつり

前年まで5月下旬に行っていた市民健康まつりをこの年から6月第1週の日曜日に変更。理由は小学校の運動会が9月から5月に変更になったことに配慮したため。

6月3日に行われた市民健康まつりは、梅雨に入る直前ではあったが、天候に恵まれたたくさんの地域の皆さんが体力測定やレクリエーションなどに参加することができた。

目玉はテレビやラジオでおなじみの長野信一先生のラジオ体操。大人は健康相談、腰痛・肩痛・膝痛コーナー、看護専門学校生による手浴、子どもたちは学校対抗綱引きなど。青陵高校チアダンス部、サガノミクスも盛り上げてくれた。

旧公民館の解体

長年、地域の方々に親しまれてきた

旧公民館の解体工事が6月から始まり、あっという間に跡形もなくなってしまった。現在、跡地には介護施設が設置されている。

平成最後の公民館まつり

平成最後の第34回公民館まつりは3月9日、10日に行われた。前日の8日にはザ・ニューズペーパーの石坂タケシさん、土谷ひろしさんの2名が来演。青陵高校チアダンス部の皆さんも元気いっぱいダンスを披露された。

平成31年度 令和元年 (2019)

公民館体制

4月1日付で小原館長代理が異動となり、草野館長代理が着任、木下主事が退職、北原主事が着任。伊藤館長、北島・柳原主事との5人体制。

相武台公民館に無料塾 ひばり学校が開設

10月13日から、地域の子どもに対して、無料で宿題や進学に必要な勉強を教える取り組みとして、「無料塾 ひばり学校」を開設することになった。公民館では、子どもたちの「勉強ができるようになりたい」という気持ちをバックアップする活動を応援している。

土曜の午後は ちょっとだけ先生の楽しい教室

2月22日、SNSってなに?という方のために、松嶋保和先生の「SNS入門」教室を開催した。参加者の多くが70代の方で、みなさん知識欲と好奇心が旺盛。熱心に松嶋先生の説明に耳を傾け、スマホとSNSについて理解していた。

コロナ禍始まる

この年、年末までの公民館行事は予

定通り行われ、小学生スポーツ大会、子どもまつり等は活況を呈したが、令和2年2月以降コロナ禍に陥り、2月中旬以降の行事は中止となった。

相模原青陵高校の閉校

弥栄高校との統合により相模原青陵高校が閉校となった。3月1日、最後の卒業式が行われたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、生徒と教員のための式典となった。

Memorial Photo



2020 ~ 2024 令和2年度～令和6年度

新型コロナウイルス禍で公民館活動に制限

令和2年度 (2020)



宮本館長が就任

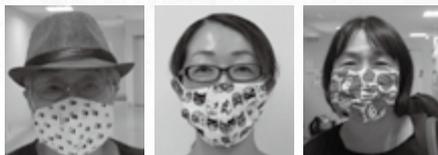
公民館体制

4月1日付で宮本館長が就任、北島主事が異動となった。草野館長代理、柳原主事、北原主事にスタッフから主事となった高野主事の5人体制となった。

公民館は、6月18日まで休館、専門部等の各種事業も8月末まで中止となった。6月19日の開館後も「市公民館における新型コロナウイルス感染症拡大予防対策ガイドライン」に基づき利用することになった。

マスク百景

新型コロナウイルス感染症予防のため、マスク着用が当たり前になり、世間ではマスク不足が問題に。ガーゼマスクも配布されたが、皆さん手作りマ



スクでおしゃれを楽しむようになってきた。

そんな皆さんの、さまざまなマスク姿を写真に収めさせていただいた。

公民館報WEB版、Facebook

広報部は公民館報「そうぶだい」の

WEB版も制作している。WEB版は相武台公民館のホームページで見ることができる。また、紙の館報の最終ページにあるQRコードから相武台公民館のホームページに入ることができる。公民館報の記事中にQRコードがある場合、読み込んでみてほしい。

平成29年から、Facebookも始めている。相武台公民館のホームページからアクセスすることもできる。



令和3年度 (2021)

公民館体制

公民館体制は前年同様5人体制。この年も引き続き新型コロナ禍で、予定されていた事業の中止が相次いだ。

工夫しながらの各種事業

・ちょっとだけ先生の教室

5月22日に加藤サエ先生オリジナルのヒモを使い、全身のバランスを整える健康療法を開催。6月26日に高橋ぎいち先生による「写真美術館」を開催した。

下半期も「グラスリッシェン」「お月さま鑑賞会」「ウケる！マジック教室」「スマホ教室」などが開催された。

・相武台ふれあい体験クラブ

公民館区内の3つの小学校の4年生から6年生までの18人が参加。5月15日に第1回、5月26日に第2回(ハイキング)を行った。

・相武台ゆとり学級

9月～12月まで全8回、参加者を25名に絞り計画した。1回目の開級式は緊急事態宣言で中止となったが、多

彩なプログラムを実施した。

・第27回相武台こどもまつり

前年実施できなかったこどもまつりを12月5日、「青少年部とあそぼう」として実施。参加者とラダーゲッターや工作を楽しんだ。

令和4年度 (2022)

公民館体制

4月1日付で草野館長代理が異動になり、高橋館長代理が着任、北原主事が異動、新たに石井主事が着任した。宮本館長、柳原高野主事との5人体制。

コロナ禍も3年目に入り、第41回相武台市民健康まつりは前年同様の形式で行われた。また、令和2年以降、異動や専門部員の加入、退部の際の歓送迎会等は実施されていないことから体育部の発案で「専門部ポッチャ交流会」を8月に開催した。

相武台の生い立ちを知る講座

相武台歴史同好会がまとめた「相武台の生い立ち年表・資料」を発刊した記念に、「相武台の生い立ちを知る講座」が7月31日、9月4日の2日間、公民館大会議室で開催された。

「川がない、山がない、お寺や神社もない。それでいて、すぐ隣にはキャンプ座間がある。この町はどのように形成されたのだろうか。

今からおよそ400年前の江戸時代には相模野と呼ばれ、牛馬の飼料に充てる草地の採集場だった。明治・大正は畑地になり、今も町名に残るような村が作られ、昭和に入ると陸軍士官学校・練兵場ができ、終戦までであった。

戦後、士官学校跡地にキャンプ座間が作られ、畑地には県営住宅や相武台



団地・グリーンパークが、都心のベッドタウンとして建設され今に至る。」

4年ぶりの「公民館まつり」

3月4日、5日「ブラボー！公民館まつり 再出発！」をテーマに、第38回相武台公民館まつりが開催された。

今回は、残念ながら模擬店を設けることはできなかったが、それでも多くの方が来場。発表部門は踊りや音楽、体操など、さまざまなサークル・団体のみなさんが楽しく元気いっぱい演技され、展示部門においては力作がいっぱいで、来場者のみなさんをうならせるほどだった。

また、公民館まつりの前日には、こちらも4年ぶりにザ・ニュースペーパー番外編が開催された。

令和5年度 (2023)

公民館体制

高野主事が異動となり、山迫主事が着任。宮本館長、高橋館長代理、柳原・石井主事との5人体制。

公民館事業、制限なしで実施

・相武台コンサート

「相模原市民吹奏楽団」

6月18日、初夏を感じる晴天の暑さの中、そあら体育館で相模原市民吹奏楽団のコンサートを開催。180人の参加者が、団員総勢56名の大迫力の演奏を目の前で聴き、「音楽のすばらしさを感じた」等、多くの感動の声があった。

・小学生スポーツ大会

ティーボール教室

11月5日、昨年に引き続き、元プロ野球選手
田野倉利男さん
を講師にお招きして、
ティーボール教室を開催した。キャッチボール、ベー



スランニング、バッティング練習に加え、体験試合も実施した。

田野倉さんのわかりやすい指導で、野球をやっている子や初めての子も一緒になって、親も子も楽しんだ「ティーボール教室」だった。

・相武台ゆとり学級(高齢者学級)

「今が青春・笑顔の仲間と！」を学習テーマに相武台ゆとり学級(9月15日～12月7日・全8回)を実施。社会見学「江戸東京たてもの園」では昭和の街並みの中で班の仲間と語らい昼食、S.O.Sライブでは大迫力の生演奏でパワーをもらった。その他、スポーツ・寄席・コーラス・防犯・防災等、様々な学びを通して笑顔あふれる学級となった。

令和6年度 (2024)

公民館体制

4月1日付で柳原主事が異動、高倉主事が着任。宮本館長、高橋館長代理、石井・山迫主事の5人体制。

相武台公民館は令和6年4月に創立50周年を迎え、公民館運営協議会では、記念事業実行委員会として、記念式典等の開催のため総務部会、イベント部会、あゆみ部会を設置し準備に着手した。

公民館創立50周年のテーマは「わたしの公民館♡みんなの公民館」で、令和7年2月2日に記念式典を開催した。

鈴虫お分けします

7月28日、川崎澄子さんとご家族のご厚意により、鈴虫の無料配布を行った。参加者に配布された鈴虫は、お盆のころには成虫になり、きれいな音色を響かせてくれる。

20年間続けていたいただいた鈴虫配布は残念ながら今年で最後となった。家族・親子の大切なふれあいの機会となり、暑い夏を涼しく、和やかにしていただいた。

長い間、本当にありがとうございました。

創立50周年記念式典イベント

令和7年2月2日、創立50周年記念式典イベントを実施した。午前中から、50周年記念万華鏡キットの配布、塗り絵等子どものフリースペースの促進、

子どもたちが作った紙コップロケットの展示、みんなの思い出・未来へのメッセージの掲示、バルーンアート&顔出しパネル、JAXA制服を着てみようコーナー、宇宙に関する展示、図書コーナー等盛り沢山の内容であった。午後1時から開催した式典イベントは、地域の未来への想いを込め、地域の人々でつくった心に残るイベントとなった。(詳細はp.34～35)



地域を相（み）つづける みんなの公民館を目指して

相武台公民館長 宮本 憲雄

相武台は「武(ぶ)を相(み)る高台」との意味を持って命名されました。戦後急速に発展したため歴史が浅いと言われがちですが、ひとつの町が誕生し成長するには様々な生い立ちがあります。地域の多くの方々がその成長に関わってこられました。

相武台公民館は、人と地域がつながる場所、地域づくりの拠点として、皆さんと様々なアイデアを出し合い、地域のニーズや課題にあわせた笑顔あふれる活動に努めて参りました。

今後も、これまでの50年を支えてくださった皆さんと、これからの50年を支えていただける皆さんと共に、相武台公民館は「わたしの公民館 みんなの公民館」づくりを目指し、成長いたします。



わたしの公民館 みんなの公民館



司会：宮本 憲雄 (写真中央)
(相武台公民館長)

山田 幸子 (写真左上)
(保育部・ちょっとだけ先生)

昭和51年から相武台在住。52年から公民館活動に携わる。保育の会(現：保育部)を立ち上げ、45年以上保育部員として現在も活動中。『ちょっとだけ先生』では書道教室を担当。

迫 良寛 (写真左下)
(青少年指導委員)

地域活動(避難所運営や自治会活動)を続ける傍ら、宮本館長からの誘いを受け、3年前から青少年指導委員・青少年部員として公民館活動に参加。

坂田 祐真 (写真右上)
(青少年部)

青少年部員として9年携わる。子どもたちとのふれあいに、自身の生きがいとやりがいを感じている。

渡邊 砂千子 (写真右下)
(創立50周年記念事業実行委員)

平成3年から保育の会のメンバーとして活動。平成26年から青少年指導委員、青少年部の活動を始め現在に至る。『ちょっとだけ先生』では子ども向け工作講座などを担当。また、平成16年から公民館スタッフとして勤務。

創立50周年を迎えた相武台公民館。
この機会に
これまでの50年を振り返るとともに、
今後の公民館のあり方について、
4人の方々に想いを語っていただいた。



これからの公民館活動はどうあるべきか

子どもたち・子育て世代の母親たちへ
～安心、安全、楽しさを追求した活動～

司会 山田さんが立ち上げた保育部の存在は相武台公民館の特徴のひとつだと思います。はじめに、子どもたちが楽しく公民館活動に参加できるよう努めてきた保育部、青少年部活動の昔と今についてお聞かせいただけますか。

山田 私は南文化センターで保育部をやっていて、相武台でも保育の会を立ち上げなければいけないと思って。昭和63年、保育の会で保育講座をはじめました。私たちは、お母さんが育児ノイローゼにならないよう、“わずかでも子育てから離れることによって、助けられるのでは”と思っていました。そこから参加したお母さんたちの交流が始まり、当時の公民館の保育活動は盛況でしたし、貴重でした。

渡邊 私の下の子が2歳のときに保育の会の講座に参加してもらいました。当時は、私自身も子どもが幼稚園に入ったら保育の会の一員になるという感じで、みなさん部員として活動されていました。



山田 渡邊さんは保育の会から保育部に入っていたのですよね。

保育講座をはじめた頃は子どもたちが多く、30名の申込定員があつという間に埋まっていました。今は少子化で子どもの参加が少なくなったので、親子で楽しんでいただけるような講座を行っています。以前は2歳児からとっていた参加対象も、今は0歳児からにして、公民館を知ってもらいたい、お母さんと子どもが一緒にくつろいでもらいたい、という気持ちでやっています。

司会 最近、体育部や青少年部事業に親子連れで参加されるときには、小さなお子さんは保育部で預かりますよ、ということもしていますね。

当時の子どもたちが大きくなって公民館に関わっていることなどはありますか？

山田 私が携わった子どもは、16歳のときに相武台公民館創立25周年記念誌に保育部の思い出を投稿されています。今、2人のお子さんの母親になっています。当時は月に2、3回活動していたので思い出ですね。

渡邊 保育部でお世話した子どもたちが、小学校に入り青少年部の活動に参加するという流れでつながっています。

当時は保育部員が10人くらいいて、全員が変わり代わり講師を務めていました。

山田 そう、みなさん得意な分野があるので、それを皆で気楽に話し合うことが活動を長続きさせる秘訣なのだと思います。活動を継続させようとすると、さまざまなアイデアが出てきますよね。地元の小児科の先生や北里大学病院の先生にお願いして、公民館で講義していただいたこともありました。

私は、子育てが終わった人たちに「今度はお習字教えてあげましょうか」ということでつながっていきました。その後『ちょっとだけ先生』でもお習字を教えるようになりました。

公民館で講座を開いたら、それが契機になって継続的なグループができると一番良いのですが、今はあまりできていないですね。

渡邊 青少年部では、毎年「ふれあい体験クラブ」を行っています。参加者のお母さんから「鉄道

好きで、何があっても鉄道優先だった子が、他の事にも興味を持つようになりました」「子どもがこんなにいろいろなことができるとは思わなかった」という感想をいただきました。様々な体験をする中で、別の好きなものが見えてくる。それは年齢に関係なく大人も同じです。

山田 ふれあい体験クラブに限らず、始めたら続けることです。楽しくなったら、共同のグループを作るような活動をにつながっていきますからね。

好評だった「ちょっとだけ先生の夏休み教室」

渡邊 ちょっとだけ先生は、平成7年度に登録制度としてはじまりましたが、公民館事業として子どもたちの夏休みの宿題をお手伝いできないか、ということから、平成17年「ちょっとだけ先生のお手伝い教室」がスタートしました。このとき、各専門部から実行委員を集め、私は保育部代表として参加しました。

夏休みに、絵画や化学実験、工作や習字、マジックなど様々な講座を2日間にわたって行ったところ、たくさん子どもたちが集まり、長蛇の列ができました。お弁当持参で、午前の部・午後の部両方とも参加した子もいましたよ。子どもたちのための事業ができたことは良いことです。

司会 そうということが親しみのある、使いやすい公民館につながっていきますね。ちょっとだけ先生登録制度は、相武台公民館の特徴ある制度のひとつです。

迫 『ちょっとだけ先生』って、とても素敵なネーミングですね。誰でもちょっとだけ得意なことを発信できて、誰でも気軽に受講できるというメッセージが伝わってきます。私も受講したことがあります。先生も生徒も生き生きと参加されていました。普段あまり接点のない方々が交流できる素晴らしい機会づくりでもありますね。

渡邊 コロナ禍の影響で、以前のようなかたちでの継続が難しくなったのもあるので、大人向けの講座も開催するようになりました。今は、月1回『ちょっとだけ先生』講座を開いています。



今後、様々なジャンルで『ちょっとだけ先生』をやりたいという人たちが間口を広げてくれば、公民館に人が集まってくるのかなと思います。

子どもたちと高齢者の関わり

～これからの公民館の在り方～

山田 子どもたちの居場所や交流の機会をつくる際、地域の大人、高齢者との関わり合いが、この地域の特徴を生かすことができると思います。今、学校に登校できない子どもたちもいます。

高齢化が進んでいる今、高齢者が子どもたちのためにお役に立てることもあるのではと、思っています。子どもたちが関心のある趣味を持っている高齢者も多いので、そうした子どもたちと高齢者をうまくマッチングさせることはできるはずです。

高齢者学級（相武台ゆとり学級）ですが、毎年様々な体験をしているのに、単年度ごとの終了が残念だと感じています。もっと間口を広げられないでしょうか。

渡邊 高齢者学級は、毎年準備委員を募集して、その年の地域課題、健康と仲間づくりを目的とし

これからの公民館活動はどうあるべきか



て学級内容を組み立てています。修了後も参加者同士はつながっていますが、各講座内容が次に広がるということはなかなか難しいかもしれません。また、参加者は70代以上の方が多く、90代の方も参加されています。今は働いている年代でもある60代の方が準備・運営委員として頑張ってもらおうことで、次のステップにつながるかもしれません。

司会 高齢者学級参加者は、こういう講座があるから参加しよう、という方が多いので、ここで不登校の子どもたちと関わるというのは難しいかもしれませんが、例えば青少年部、体育部等の事業の中で、子どもたちと高齢者がうまく接する機会をつくることは可能だと思います。

坂田 公民館で午前中に複数講座をやるとか、月曜日から金曜日までコミュニティ室を開放し、子どもや高齢者に自由に来てもらい、出欠をとって、子どもがいたら子どもと接する、そして買い物をして帰るでもいい。そういうことはできるんじゃないかな。

司会 相武台公民館のコミュニティ室は地域の方が気軽に使える場所です。来た人が「どこに住んでいるの」ということから始まって交流していく。

そういう場があってもいいのかもしれませんがね。

迫 行けば誰かと話せる、そういう場所って貴重だと思います。コミュニティ室を地域全体でそういう風に活用できるととても素晴らしいと思います。

公民館を地域住民にアピールする方法 もっと知ってほしい公民館の機能

坂田 『ちょっとだけ先生』に限らずいろいろな講座を行うにしても、なかなか機会と場所がない。集まる場所をどうしようかということになる。相武台公民館は集まりやすく貴重な場所なのですが、そのことが地元の人たちにあまり知られていないのではないのでしょうか。

山田 相武台公民館は周りの住宅と距離があり、吹奏楽団の練習ができるのも、この場所だからこそですね。

迫 今の公民館は小学校跡地を活用しているため、近隣の公民館と比べて、部屋数も多く、敷地も広いですね。いつでも立ち寄れるコミュニティ室、予約して利用できる大・中・小3つの会議室・多目的室・料理実習室・工作室、その他保育室もあります。また、広いグラウンドと体育館までありますからね。もっともっと沢山の方に使ってもらえたらと思っています。

司会 相武台公民館をアピールできるひとつの特徴ですね。みんなの公民館として、もっと利用してもらう方法はないのかな、という点ではどうですか。

渡邊 昔は55歳、60歳で定年だったので、定年後に専門部に関わっても長く活動できましたが、今は、65歳、70歳まで働き、夫婦共働き世帯が増えているので、子育てを終えた人に専門部に入ってほしいと言ってもなかなか難しい。また、定年後でなくても活動できる場ということが知られていない。

まちづくりセンターに来ることはあっても、公民館には意識が向かない、多くの人は活用方法も理解していないかと思う。公民館は誰もが利用できる場所だということを、どうしたら知ってもらえるのかな…。

司会 そうですね。公民館はひとつの憩いの場所として役立っている部分もある。何かのついでに公

民館に立ち寄り、催し物があれば参加して一休みするなど、いろいろな利用の仕方がある。

坂田 目印になる待ち合わせ場所でもいいと思います。公民館のコミュニティ室は冷暖房も完備していて休憩にも使える。また。公民館の前で写真を撮る。SNSで発信できる場所。そういう場所でもいい。PRすればできると思います。

時代に合わせた広報、情報発信

司会 公民館の広報、情報発信についてはいかがですか。
迫 現在の情報発信は、回覧板や地域掲示板がメインになっていますが、スマホで情報が届いたり、参加意思を表明できる仕掛けがあると、公民館をより身近に感じてもらえると思っています。例えば青少年部の活動は地域掲示板と学校を通じたチラシ配布で周知し、応募を電話（月曜、祝日の翌日を除く9時～17時）で受け付けていますが、QRコードで読み取り、好きな時間にスマホで応募ができる仕組みにしたり、希望者にはLINEでイベント情報を発信する等、様々な工夫ができるとしています。

みんなが集う、みんなの公民館

～地域にとっての大きな我が家～

迫 公民館は大きな我が家であってほしいですね。足を踏み入れたら、見知らぬ人でも「こんにちは」「暑いですね」等挨拶が交わせるような。私は1階窓口で事務室の皆さんに挨拶すると、「いらっしゃい、今日はどうしたの？」「いえ、特に用事はないのですが、少しお話をやってきました」みたいな会話をすることがあります。会話が弾むだけでなく、温かい気持ちになります。

司会 相武台公民館はフレサ側玄関から入ってグラウンド側に通り返られるけれども、通り返るだけでも立ち寄ってほしい。中に入れば、いろいろなものが置いてあるので、ちょっと眺めて、というのを少しでも広げられればな、とも思います。

渡邊 公民館は、高齢者、若者に限らず0歳から100歳以上のすべての住民を対象にしています。先

日、敬老の日の発祥である敬老会のニュースをテレビで見たのですが、高齢者だけ、子どもだけではなくて、みんなと一緒に参加している映像を見て、これだ！と思いました。おじいさん、お父さんも行くから私も行く、というように、みんなが公民館に来てほしい。そんな仕組み・環境をみんなで作りに上げていかなくてはと感じました。

坂田 たとえば『ちょっとだけ先生』に登録している先生はたくさんいます。教えました、で終わるのではなくて、続けていってこういう面白いものがあるんだよ、ちょっとだけ先生で習ったから、やってみようかな、というように、みんなが広めて、活動につなげていく。

50周年のこの機会に、何か新しいことに挑戦していきたいですね。

司会 相武台公民館の特性とともに、高齢者と若者のジョイント、これからの公民館活動など、様々な課題や新たな可能性が見えてきました。

皆さん、本日はありがとうございました。



写真撮影：高橋 ぎいち

令和7年2月2日(日)

相武台公民館創立50周年記念式典イベントを開催しました!

第1部：式典 13:00~14:15 司会:丸山 由紀子

ビデオメッセージ出演

大貫 勇輔さん(ダンサー・俳優)、天羽 尚吾さん(ダンサー・俳優)、鈴々舎 美馬さん(落語家)、小山 康代さん(小山姉弟の母)、石坂 タケシさん(ザ・ニューズペーパー)、土谷 ひろしさん(ザ・ニューズペーパー)

クラシックギター演奏：古菅 裕之さん

【演奏曲目】・バッハ《BWV997よりジグ、ドゥーブル》・吉松隆《風色ベクトルよりII、III》

ハンドベル演奏：RingRingRingers(リン・リン・リンガーズ)

【演奏曲目】・ふるさと・アニーローリー・星空メドレー



ハンドベルサークル
「RingRingRingers」

第2部：14:30~16:00

サイエンストークイベント 「未来の主演は君たちだ！」

司会：橋本 沙和 勝山 遥太
登壇：JAXA 吉川 真先生

JAXAはやぶさ2ミッションマネージャ
吉川真先生と来場者のみなさん

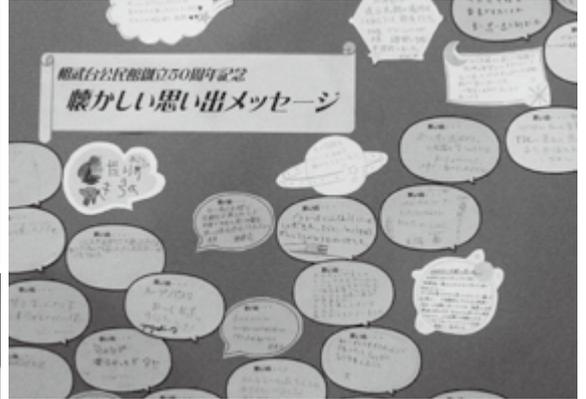
〈開催協力〉

チラシ、万華鏡巻紙デザイン：猪股 健二
バルーンアート：小林 ナタリヤ
横看板題字：山田 幸子
太陽系惑星距離図：丸山 孝則
塗り絵デザイン：熊谷 早苗
ビデオメッセージ編集：渡邊 恵美
前日準備・当日運営協力：各専門部員、ちよっただけ先生他地域のみなさん



講演するJAXAはやぶさ2
ミッションマネージャ
吉川真先生





古菅裕之さんのクラシックギター演奏



相武台公民館サークル一覧（令和7年1月現在活動中のサークル）

スポーツ	卓球	一善会 卓球同好会、輝クラブ、クラブグリーン、鈴代チーム、スワン、卓球レインボー、卓新クラブ、卓遊会、卓楽会、チューリップ、つくしの卓球同好会、テーブルテニス、ひばり、ピンポン同好会、マーボー卓球クラブ、ゆり、和会、卓球 若葉会
	野球	相武台スウィッカーズ、相武台フレンズベースボールクラブ、座間ひまわり野球倶楽部
	バウンドテニス	相武台バウンドテニス
	バレーボール	北相チェリボー
	サッカー	相武台 FC ニューグリーン
	武道	普門会、和道流相模原支部、新陰流兵法 転会 相模原、相模原柔術拳法会
	吹き矢	ニコニコ吹き矢同好会
健康体操	ポッチャ	一善会 ポッチャ同好会
	太極拳	健康太極拳クレマチス、相武台太極拳クラブ、太極すこやかなの会、太極拳 流水会、夢クラブ「わかば」太極拳
	ヨガ・ピラティス	ヨーガの会、ヨーガ蓮の会、ヨガ & ピラティスサークル
	体操	神奈川高齢者体育会相武台教室、ストレッチクラブ菜の花会、ストレッチ体操サークル、背骨コンディショニング腰痛体操、相武台ヘルスアップ、にこにこライフ
ダンス	キッズダンス	リルスター
	チアダンス	SLEIGH BELLS
	ヒップホップ	CLAP、eclat、Lit、MippaRa KID、T.A、T-Day、T-NIGHT、ストリートダンス部、スリースリー
	フィットネス	ズンバダンスフィットネス
	フラダンス	ガーデニア、ヒロ・ビューティーフラ、フラサークル ホアロハ
	社交ダンス	H&I、グリーンソシアル、ダンスサークル ニューヨーク、ハッピーダンス令和
音楽	楽器演奏	青陵ウインドオーケストラ、相模原市民吹奏楽団、北里大学北里会文化会吹奏楽団、集まれ！トロンボーン、アンサンブル・ジュリアンズ、かおり☆ぐみ、気まぐれアンサンブル、サックス・ファゴット、相武台トランペット、ブラス・オクタゴン、わだつみクラリネットアンサンブル
	バンド	からあげちゃんバンド、コン・アミーゴス、相武台スマイル鼓笛バンド、サザングローリーバンド、NO.3 BIG BAND、相模音楽サークル Y
	合奏	新磯野合奏サークル
	ギター	ポコ・ア・ポコ
	マンドリン	マンドリーノ・マンドリーノ、マギーアンサンブル
	ウクレレ	ソドミラくらぶ
	ピアノ	ピアノサークル、ミュージックラボ
	打楽器	ブルーウィンド
	三味線	三味線サークル
	大正琴	Grace・Harmony
	ハンドベル	RingRingRingers

音楽	歌唱	歌声サークル、歌の集い・こだま会、エンジョイ・サークル、かもめ、手話コーラスリボン、フラワーエコー
	シャンソン	C&C コクリコの会
芸能	舞踊	サークル甲子会、日本舞踊 座敷舞 吉の会
	阿波踊り	ひより連、和み会
	よさこい	YON カンパニー
	演劇	劇団 SPOON
	詩吟	愛吟会、けやきの会、幸岳会、幸木岳会
趣味	俳句	柴胡会
	書道	泉の会、書道 書光会、習字幸風会、習字同好会、相武書道会
	茶道	茶遊の会
	生け花	きもの姫、雅の会
	フラワーアレンジメント	フラワーサークル ー花
	囲碁	棋楽会、青春会、相武台囲碁愛好会
	将棋	将好会
	工芸	七宝焼サークル
	篆刻	研刻クラブ
	絵画	樹々の会、彩月会、智の会、ペイントクラブ
	立体絵画	スリーディメンション
	絵手紙	相武台絵てがみサークル
	切り絵	切り絵の会 ひばり
	押し花	サークル 美美花
	手芸	コスモス キルト、サークル コットン、すみれ会、マクラメ同好会
	料理	食友会、食楽会、にこにこパン工房、ひまわりカフェ、ままれんじゃー、蕎麦打ち同好会
	ゲーム	CCVR
	学習・研究	写真
読書		読書散歩
健康		医療生協相武台新磯支部、食生活改善推進団体わかかな会 相武台支部
歴史		相武台歴史同好会
子育て		親子リトミック バンビ相武台、相模原おやこ劇場 新武低学年ブロック、相模原おやこ劇場新武高学年ブロック、相武台保育園
福祉		音楽療法さがみはら、ボランティアグループえん、福祉ボランティア風
地域		新磯野の環境を守る会、ごみの会、新婦人いちごみるく、相武台柴胡の会、相武台サロン、生活クラブ生協 CLUB そうぶだい、特定非営利活動法人ワーカーズ・コレクティブベル
学習		お絵描き算数クラブ、無料塾ひばり学校 相武台校
その他活動		一般社団法人実践倫理宏正会（相武台）

公民館活動を支えた方々

◆歴代公民館長◆

初代	有賀 三郎	昭和 49 年 4 月～
2代	小林 典夫	昭和 51 年 3 月～
3代	白井 明	昭和 58 年 4 月～
4代	平田 誠	昭和 62 年 6 月～
5代	大塚 豊	平成 4 年 5 月～
6代	中野 正弘	平成 7 年 5 月～
7代	平片 勝美	平成 16 年 5 月～
8代	小谷 紘一郎	平成 24 年 5 月～
9代	伊藤 幸夫	平成 30 年 5 月～
10代	宮本 憲雄	令和 2 年 4 月～

◆歴代公民館運営審議会委員長◆

初代	白井 明	昭和 49 年度
2代	平片 勝美	昭和 50 年度
3代	大塚 豊	昭和 51～52 年度
4代	中村 勇	昭和 53 年度
5代	平田 誠	昭和 54～58 年度
6代	若尾 守	昭和 59～62 年度
7代	阿部 仰	昭和 63～平成元年度
8代	佐藤 啓久	平成 2～6 年度
9代	小針 勇	平成 7～10 年度
10代	渡辺 君憲	平成 10～11 年度
11代	佐藤 芳紀	平成 12～14 年度

(※平成 15 年 6 月から公民館運営協議会へ)

◆歴代専門部員等の名簿◆

(平成 12 年度～ 専門部員等として活動されている方並びに 2 年以上活動された方)

〈体育部員 (★: 体育指導員・スポーツ推進委員)〉

渡辺 君憲★	除村 敏子★	佐々木 寛次	関 惣介	大塚 豊	大原 宏允
渡瀬 彦昭★	多田 和夫	馬場 仁子★	清宮 まさよ	吉村 勝利★	五十嵐 光男
若林 豊★	本名 聖一	西貝 茂	秋葉 征勝	永井 豊清	吉野 孝行★
関口 俊子★	秋葉 礼子	東條 卓	依田 武	倉谷 守	萩山 忠男★
磯谷 幸三	渡辺 義隆	松尾 広明	村岡 久代	吉田 慶男	小池 友武★
浜野 広子	遠山 秀則★	梅澤 達男★	田代 清隆★	猪股 健二★	井谷 昌博★
丸山 恵美子★	金井 紀★	中野 佳代子★	佐藤 晃一★	楠 千代子	山谷 政雄★
松嶋 保和★	林 正司	牛島 正昭	菊地 賦★	櫻井 葉子	結城 弘二
岡本 英夫★	岡本 遥	座本 善司★	佐々木 彰★	櫻井 英樹	伊藤 ひとみ
石渡 保江	平田 陽一★	佐藤 隆一★	荒井 善友	岡本 節子	横山 吉則
酒巻 英俊	藤内 和子★	丸塚 豪	小川 保江	織田 和彦★	藤澤 兼二

〈青少年部員 (★: 青少年指導員・青少年指導委員)〉

浜野 広子★	矢野 昌子★	石井 次郎★	奥村 正之★	遠藤 誠	大野 亮次★
植田 はつみ★	齊藤 明夫	相澤 利夫★	奥野 智★	戸田 恵子	前田 友恵★
野口 徹也	加藤 弘子★	渡邊 栄子★	金子 良昭★	石川 優子★	長利 裕子★
澤田 貞子	赤柴 美重子★	川島 忠博	袴着 亮介	加藤 功	山形 実千代★
高岡 昭	萩原 俊之	武田 嘉宣	中野 正弘	木村 勝★	小川 昭司
山本 繁二★	田中 信行	丸山 孝則★	小野田 光孝	村上 貴子	青木 恵子
浜田 義大	横山 吉則★	渡邊 砂千子★	跡治 正幸★	佐藤 敏子★	渡邊 恵美
坂田 祐真	小嶋 志津枝	安藤 光子	山口 恒★	篠原 夕子★	熊谷 早苗★
佐々木 和泉	川嶌 梨乃★	飯田 葉子	迫 良寛★	川田 知恵	

〈文化部員〉

相川 新慶	大西 康	菊池 孝子	東條 恵美子	東條 英子	永田 カズヨ
藤村 真理子	村松 節子	渡辺 礼子	大銅 桂子	大野 亮次	竹野 和嘉子
佐々木 寛次	堀口 眞弘	林 セツ子	中村 慎吾	茶木 稔郎	澤田 康雄
高橋 玉江	武内 和子	榎本 弘光	小林 京子	金子 裕子	白井 信男
富田 雄三	佐藤 武彦	山口 松男	小山 文子	林 祥二郎	番匠 勉
飯田 葉子	関戸 公子				

<広報部員>

中村 利江	橋本 佳子	高沢 由利	吉永 昌子	藤井 紀子	松村 美佐子
田中 敏男	藤内 和子	大貫 真弓	蒲 敦子	佐々木 弘子	最上 美枝子
金谷 美恵子	小野寺 勝弘	鈴木 陽子	矢野 俊行		

<保育部員 (※平成 19 年度までは「保育の会 会員」)>

山田 幸子	大野 千恵子	右田 順子	岡田 美恵子	荒井 えつ子	大森 悦子
河村 味三江	渡邊 砂千子	樋口 綾子	本告 美子	斉木 久美子	石倉 みどり
小池 明美	戸塚 武子	丸山 理佳	桜井 恵子	山谷 和子	神亀 理恵
岸 陽子	松井 美紀	吉田 佐和子	北村 桂子	大塚 幸子	太田 浩代
小澤 久美	滝沢 寿美子	西山 順子	是枝 敦子	山橋 慶子	武田 真由美
高崎 カ世子					

<健康づくり部員 (※平成 29 年度末で解散)>

飯塚 弥生	大原 律子	安藤 晴雄	田中 直美	岸 美子	笹原 砂知子
岡本 節子	岡崎 智代恵				

<ちょっとだけ先生制度登録者>

岡本 美佐子	杉 美春	武田 正文	安田 肇	山荷 雅恵	山田 幸子
菊池 孝子	佐藤 勲	小針 勇	松嶋 富士江	大塚 豊	小鈴 眞知子
斉藤 明夫	佐々木 寛次	佐々木 賢次	東條 恵美子	橋本 喜夫	松村 美佐子
葉王 澄江	山口 喜代志	御牧 佐代	木藤 哲彦	小池 俊雄	花輪 一郎
真崎 康男	山口 アサ子	涌田 久子	西岡 青溪	松本 みさを	深川 早苗
深谷 甲子	増本 敏康	山本 輝子	平谷 花子	藤村 真理子	大関 聖志
佐藤 孝子	田辺 妃侶子	二瓶 鶴子	藤田 貞夫	松崎 さた	湯山 恵美子
馬場 理恵子	町田 正信	野坂 浩美	山口 千鶴子	田中 千代	永田 匠美
相川 真慶	最上 美枝子	奥村 一郎	川井 勇一	工藤 金由	西貝 茂
水島 忠雄	渡邊 砂千子	佐藤 真澄	永田 なるみ	丸山 孝則	金子 良昭
松村 美佐子	芦尾 京子	明島 高司	高橋 ぎいち	河瀬 弘子	三上 国光
池崎 清子	五十嵐 利平	小泉 泰夫	岩沢 雪乃	望月 ます美	常本 兼二
米沢 均	五十嵐 まり子	池田 早苗	古賀 りつか	曾我 ユキ子	佐伯 竜夫
跡治 正幸	高野 麻衣子	加藤 サエ	佐々木 正雄	岡本 英夫	加藤 啓子
佐藤 裕美子	長堀 直美	長谷川 雅一	畑 明子	浜田 義大	松嶋 保和
大木 真理	荻原 正人	森 加壽子	田口 芽衣	山田 龍	

職員 (平成 12 年度～)

石川 直之	一之瀬 素弘	安部 和宏	北村 明人	大谷 政章	曾我 まこと
渡辺 健二	吉田 百恵	渡辺 梓	清水 良二	三留 忠弘	藤田 郷介
中島 勝平	中西 和子	藤野 圭太	北島 佳奈	岩本 雄二	中島 泰美
峯岸 真弓	大塚 淳紀	山崎 徳嘉	山仲 るみ子	江成 俊明	柳原 淳子
小原 隆	木下 貴史	竹熊 千春	草野 明朗	北原 寿子	高野 麻衣子
高橋 雅広	石井 あゆ子	山迫 卓	高倉 佳寿子		

相武台公民館創立50周年記念事業実行委員会名簿

実行委員長 宮本 憲雄
 副実行委員長 桑原 勝利 高橋 孝雄
 会 計 右田 隆一
 会計監査 永井 保子

〈総務部会〉

部会長 宮本 憲雄
 桑原 勝利 高橋 孝雄 右田 隆一 永井 保子

〈あゆみ部会〉

部会長 岡本 英夫
 堀口 眞弘 永井 保子 渡邊 砂千子 小野寺 勝弘
 滝沢 寿美子 高橋 ぎいち

〈イベント部会〉

部会長 堀口 眞弘
 岡本 英夫 永井 保子 渡邊 砂千子 小野寺 勝弘
 滝沢 寿美子 高橋 ぎいち

【地区自治会連合会 松嶋会長の御冥福をお祈り申し上げます】

相武台地区自治会連合会会長 松嶋 保和 様が令和6年11月に御逝去されました。
 松嶋様には、長年、体育部やちょっとだけ先生などで御尽力をいただくとともに、
 この度の創立50周年記念事業につきましても多大な御協力をいただきました。
 心より感謝申し上げますとともに、謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

相武台公民館

五十年のあゆみ

相武台公民館 創立50周年記念誌

50年のあゆみ

発行日 令和7年3月31日

発行者 相武台公民館創立50周年記念事業実行委員会

事務局 相模原市立相武台公民館

相模原市南区新磯野4-1-3 TEL046-256-3700

印刷 株式会社日相印刷

相模原市南区麻溝台8-2-7

Sobudai
Community
Center
50 Years of
History

相武台公民館

五十年のあゆみ